

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

1 工場概要

- ▶ 住所 美濃工場 : 岐阜県美濃市長瀬434番地
- ▶ 従業員数 美濃工場 : 25名(その他契約社員5名、協力会社2名) 合計 32名
- ▶ 敷地面積 美濃工場 : 8,227㎡

2 事業概要

▶ 事業内容

- ・プラスチック製品の製造加工ならびに販売
- ・上記に付帯する一切の業務

▶ 主要製品

美濃工場

- ・ポリスチレンシート
- ・ポリエチレンシート
- ・ポリスチレンプレート



3 工場変遷

- | | |
|-------------|---|
| 昭和27年11月26日 | 名古屋市に会社設立。軟質塩化ビニルシート、硬質塩化ビニル管用コンパウンド、各種押出成形品の製造販売を開始。 |
| 昭和31年 8月 | 硬質塩化ビニル管製造販売を開始。 |
| 昭和36年10月 | 本社及び工場を小牧市に移転。 |
| 昭和39年 7月 | 硬質塩化ビニルシートの製造販売を開始。 |
| 平成 2年10月 | 岐阜県美濃市に工場建設し、シートの生産を本社から移設して生産開始。 |
| 平成10年12月 | ISO9002審査登録 |
| 平成12年10月 | ISO14001審査登録 |
| 平成13年 3月 | 美濃工場が岐阜県環境優良事業所となる |
| 平成14年12月 | ISO9001:2000移行認証取得 |
| 平成17年 7月 | ISO14001:2004移行認証取得 |

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

4

環境方針

▶ ISO環境方針

日本プラスチック工業株式会社本社、本社工場及び美濃工場は、地球環境保全が人類共通の課題であり、企業の責務であることを認識し、環境保全に万全の配慮と不断の努力を行います。

- 1) 硬質塩化ビニル管及び2次加工品の製造、ポリエチレン等のプラスチック管の製造、ポリスチレン・ポリエチレン等のプラスチックシート及びプレートの製造における生産活動で、環境マネジメントシステムを構築し、継続的維持、改善及び汚染の予防を図り、以下の環境保全に努めます。

廃棄物のリサイクル化及び減量化を推進します。

設備や機器の高効率化と生産プロセスの改善により電力等の省エネルギーを推進します。

技術的、経済的に可能な範囲で騒音レベルの改善及び水質汚濁防止を推進します。

上記の環境目的及び目標を定めると共に、それらの達成のため環境マネジメントプログラムを作成し、その推進に当社で働く全ての人が一丸となって努力します。

- 2) 環境関連法、条例及び当社が同意したその他の要求事項を順守することに努めます。

- 3) 地域との調和を図ると共に、地域の環境保全活動に積極的に参加します。

・この環境方針は、教育及び啓蒙活動を行い、当社で働く全ての人に周知徹底を図ります。

・この環境方針は、一般の人でも入手できます。

平成20年4月1日

日本プラスチック工業株式会社

代表取締役社長

結 城 博

▶ ISO認証取得状況

平成12年10月 ISO14001(財)日本規格協会に審査登録(JSAE276)

平成13年10月 ISO14001第1回定期維持審査実施

平成14年10月 ISO14001第2回定期維持審査実施

平成15年 9月 ISO14001第1回更新審査実施

平成16年 7月 ISO9001第2回更新審査、ISO14001第1回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施

平成17年 7月 ISO9001第2回-1定期維持審査、ISO14001第1回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施

平成18年 7月 ISO9001第2回-2定期維持審査、ISO14001第2回更新審査(Q/E複合審査)実施

平成19年 7月 ISO9001第3回更新審査、ISO14001第2回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施

平成20年 7月 ISO9001第3回-1定期維持審査、ISO14001第2回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

5

目標及び実績

美濃工場

課題	テーマ	管理指標	基準年度	2007年度		
				目標	成果	自己評価
循環型社会の形成	産業廃棄物総排出量の削減	排出量	2006	▲5%	40%	×
	ゼロ・エミッション化	再資源化率	—	95%	95%	○
地球温暖化防止	温室効果ガス削減	CO ₂ 原単位	—	—	—	—
	CO ₂ 総排出量	t - CO ₂	—	—	—	—
	物流のCO ₂ 削減	t - CO ₂	—	—	—	—
有害科学物質の削減	VOC大気排出量削減	削減率	—	—	—	—

自己評価の基準 : 目標超過達成 ○ : 目標達成 : 目標一部達成 × : 目標未達成

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場



環境会計

環境投資

美濃工場

2007年度:241万円

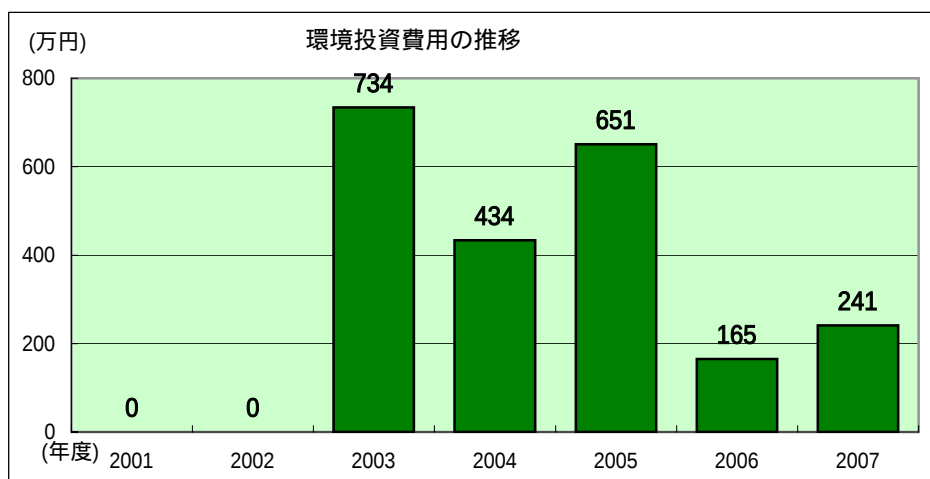
2003年度は、省エネ対策でDCモーターのINV化(2台)

2004年度は、騒音対策で管理室エアコンを低騒音タイプにする、防音工事等

2005年度は、防音粉砕機導入、既設粉砕機の防音対策、冷却水の一部を閉ループ化、ストレッチ包装機などを実施

2006年は、粉砕機に防音BOX導入(3台)等

2007年は、客先使用済製品回収用BOX、センサ付照明、防音BOX導入(1台)等



日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

環境保全効果

美濃工場

効果の内容	効 果	2006年度	2007年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する 資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)	44,028	48,035	4,007	9.1%
	水使用量(m ³)	96,394	100,005	3,611	3.7%
事業活動から排出する 環境負荷及び廃棄物 に関する効果	CO ₂ 排出量(t)	—	—	—	—
	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	NO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	ばいじん排出量(t)	—	—	—	—
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	—	—	—	—
	廃棄物排出量(t)	2.7	6.0	3.3	122.2%
	廃棄物埋立量(t)	—	—	—	—

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

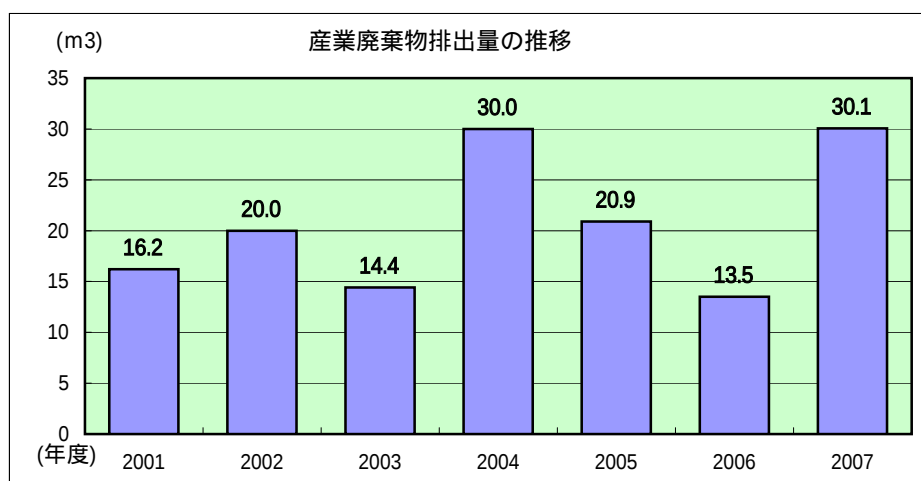
7 環境パフォーマンス

循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減

美濃工場

2007年度は生産増に加え、回収業者変更に伴い、計量方法の変更
また、木屑を産廃とした為、大幅増となった。



ゼロ・エミッション化

美濃工場

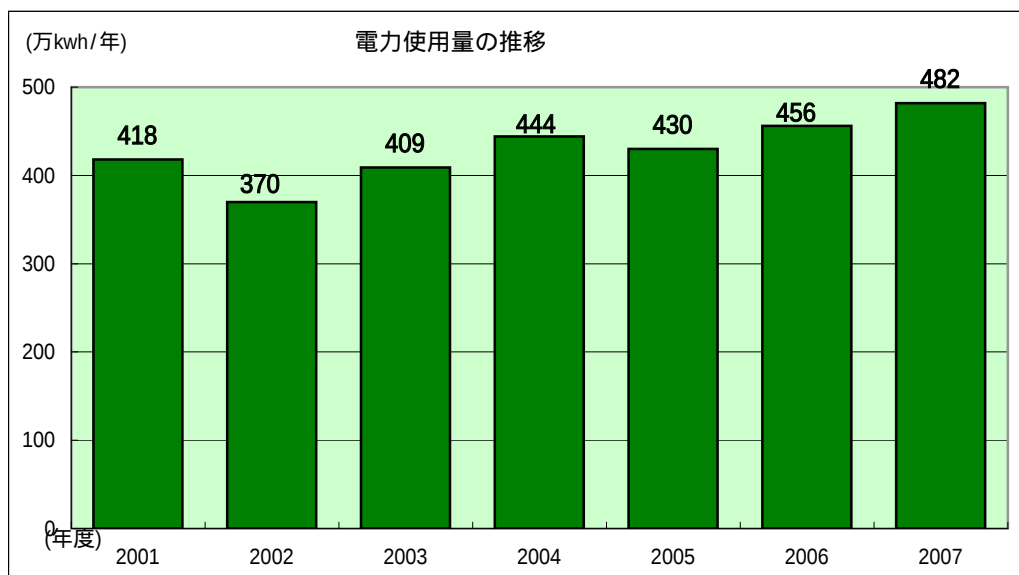
廃棄物削減を目的にリサイクルを推進し、今期はリサイクル率95%以上を目標に
取り組んでおります。

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

地球温暖化の防止

温室効果ガスの削減

美濃工場



日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

有害化学物質の削減

PRTR法対象物質の排出量・移動量

美濃工場

美濃工場は対象外



環境コミュニケーション

地域の皆様との交流

美濃工場

名 称 長瀬地区町内春祭りに缶ビール1ケース、缶ジュース1ケースを寄付
日 付 平成19年4月6日

名 称 長瀬地区盆踊りに缶ビール1ケース、缶ジュース1ケースを寄付
日 付 平成19年8月9日

地域美化活動

美濃工場

名 称 長瀬地区町内清掃活動に参加
日 付 平成19年5月20日
参加人数 日本プラスチック工業(2名)
町内からの参加者(30～40名)
缶ビール1ケース、缶ジュース1ケースを寄付

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場



サイトデータ～美濃工場

INPUT

項目	単位	使用量	熱量換算 G J
エネルギー	電気	万kWh	482
	石炭コークス	t	0
	都市ガス	千m ³	0
	灯油	kl	0
	ガソリン	kl	0
	重油	kl	0
	LPG	t	0
	他	0	-
	合計	—	48,035
水使用量		万m ³	10.0

OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	6,774
---------------------	-------------------	-------

2007年6月28日実施

排水	放流先	項目	単位	排水口名:工場排水	
				規制値	測定値
	公共用水域	pH	-	5.8～8.6	6.6
		BOD	mg/ℓ	30	<0.5
		COD	mg/ℓ	20	<0.5
		SS	mg/ℓ	200	<1.0
		N-ヘキサン	mg/ℓ	5	0.6
		鉛及びその化合物	mg/ℓ	—	—
		亜鉛	mg/ℓ	—	—
		COD総量規制値	kg/日	—	—
		窒素総量規制値	kg/日	—	—
		りん総量規制値	kg/日	—	—
	下水道	pH	-	—	—
		BOD	mg/ℓ	—	—
COD		mg/ℓ	—	—	
SS		mg/ℓ	—	—	
廃棄物排出量			t	6.0	
再資源化率			%	95以上	